

<海外短期研修6日目(12/22)>

あっという間に語学学校最終日を迎えました。

初日こそクラスに馴染めるか緊張していた生徒の皆さんでしたが、様子を掴んでしまえば英語での会話を楽しむ姿を多く見ることができました。

語学学校は1週間単位で授業が進みます。基本は通常通り授業を行います。10時頃から今週で授業が終了になる生徒の Farewell party が行われました。滞在期間は週、月、年単位と卒業する生徒によってまちまちですが、長い期間を一緒に勉強してきた生徒の帰国は、講師、クラスメイトとともに思い入れがあります。もちろん北高生も卒業する他国の学生とともに盛大に送り出させていただきました。

まずは担当講師から1人ずつに修了書の配布が行われ、それを受けた卒業生が全体にスピーチをしました。北高からは事前に立候補があった男女1人ずつが行いました。昨夜中に台本を作成し、我々が待機している Teacher's room に事前に添削依頼に来るなど、自分の気持ちをしっかり言葉にするために準備されたものはとても心に響くものとなり、スピーチを終えたあとにも他国の学生からも声を掛けられていました。その後、有志のクラスからダンスの披露がありましたが、そのクラスに所属していない北高の生徒も一緒に参加するなど、笑いあり、涙あり、ダンスありと大盛り上がりそのまま終了となりました。残りの時間は通常クラスに戻ります。昼食は他国の学生と取る生徒が多く、再集合場所には中国人のクラスメイトからもらったという人数分のドーナツを持ってくる等、それぞれの挑戦が分かる最終日の語学学校となりました。

午後は、Dana-Farber Cancer Institute (ダナ・ファーバー癌研究所) を訪問し、ここで臨床研究を行っている菊池先生の講演をお聞きしました。ダナ・ファーバーは、ハーバード大学医学部・歯学部を中心に、世界最先端の研究・治療の行われる附属病院・医療機関の集まる、Longwood medical Area にあります。

菊池先生は、洛星中学高校を卒業後、京都大学医学部に進学、消化器内科を専門として卒業後、幾つかの病院に勤務。2016年10月に渡米し、ダナ・ファーバー研究所にて新たな抗がん剤を開発するための研究をされています。

講演では、医師としての仕事や癌発生の仕組みと治療方法に関してわかりやすく解説頂いた後、アメリカに来たきっかけや、アメリカに来てわかった素晴らしい研究環境と、そうでない生活環境、研究者として留学するために必要なことをお聞きし、そして、いまの高校生へのアドバイスも頂きました。先生の優しい口調やわかりやすい説明のおかげで、日常生活の身近なこととして癌を位置づけ、考えることが出来たと思われまます。その為、前半部分の専門的な内容が終わった段階で、5名以上質問が続き今回の研修の中で生徒たちの反応は一番良かったようです。後半部分ではディスカッション形式で行われ、グループ毎に、「癌の告知を医師として患者に行う場合」もしくは「家族内の癌患者に癌であることを知らせる場合」どのようなことに気を付けて行った方が良いのかを生徒達でディスカッション。そこで出て来た意見を発表し、実際に患者に接してきた医師の現場目線での講評を頂きました。死生感や人生の価値観

等も踏まえた意見や、実際にアメリカの病院で試験的に行われているようなことも意見として出されており、先生からも面白い考えだと好評をいただきました。

高校生へのアドバイスでは、「やりたいことを見つけて目標にしよう」「好奇心を大切に」といった、昨日までの講演者と同じような話があり、世界の第一線で活躍されている人の考えには共通点があると、気が付いた生徒も多かったと思われます。

今日の講演会の印象としては、質問や発言をする生徒の数が一番多く、実質的な研修としては最後のプログラムになることから、積極的に参加し、より多くを学ぼうという姿勢が表れていたと思われます。

帰り道も雪が舞い、歩道の端にはうっすら白く積もっていました。

明日はこの研修を締めくく、一日班別自主研修となります。天気が回復することを祈るばかりです。

写真は、語学学校修了式でのスピーチ、修了式後のダンス（Zumba）

ダナ・ファーバー癌研究所での集合写真、菊池先生の講演風景 となります。



